

ペット救護へ決意固く

東日本大震災で多くのペットが被災し、県内の動物愛護団体やボランティアが、飼い主と離れ離れになったペットや避難所に連れて行けないペットを一時的に預かっている。飼い主と再会する日が来ることを願い支援に奮闘している。

県内ボランティアら



「飼い主に戻るのが一番の幸せ」と話す釜崎伸昭さん
—盛岡市

一時預かりに奮闘 「飼い主に戻りたい」

盛岡市の会社員釜崎伸昭さん(54)は、被災動物の「一時預かりボランティア」として大槌町で保護された雄のラブラドルレトリバーを預かる。黒い毛並みには火災で焦げた跡があり、引き取った当初は肋骨が浮き出るほど痩せていた。

「家の門を出るまでトイレをしないのに驚いた。よほどきちんとしつけたのだろう」と感心する釜崎さん。飼い主に戻るのが一番の幸せ。その次はかわいがってくれる人への譲渡が優先だが、いなければ預かるつもり」と決意は固い。

県は2008年、災害時の動物救護に関するマニュアルを制定。各地の保健所が被災動物を保護し、治療が必要な場合、広域振興局が指定した拠点動物病院が2週間まで預かる。その後、県と協定を結んだ動物愛護団体が飼い主や里親を探す。動物いのちの会いわて(下机都美子代表)も県と協定を結ぶ団体の一つ。同団体は、現在一時預かりボランティアへの依頼も含め21匹の被災動物を預かる。飼い主が不明な犬猫のほか、避難所に連れて行くことができない飼い主の生活基盤が安定するまで預かる動物もいる。

下机代表は「屋外で中型以上の犬を預かることができない家庭が不足している。今回の震災で生き残った命を助け、できれば飼い主に戻ってあげたい」と切望する。

県や県獣医師会、県内の動物愛護団体は災害時動物救護本部保護動物窓口を開設。特設ホームページに保護動物や行方不明のペット、一時預かりボランティア募集などの情報を掲載している。

アドレスはhttp://www.iwatchisaidoubutu.net。問い合わせは同本部窓口(019・611・0410、ファクス兼、平日正午〜午後4時、メール iwatchisaidoubutu@gmail.com)へ。